

第10回「市長と語るタウンミーティング」を開催しました

1 日 時 令和6年6月3日(月曜日) 午後6時30分～

2 場 所 ZEN キューブ4階コワーキングスペース

3 参加者

高畑 光宏 様

横田 飛真 様

造田 聡子 様

山本 哲哉 様

井口 都 様

上田 弥生 様 計6名

4 会議の概要

【テーマ】中心市街地活性化について

1. 開 会

2. 主催者挨拶

3. 参加者紹介

4. 中心市街地活性化について 概略説明

5. タウンミーティング

6. 閉会

5 いただいたご意見

発 言 者	ご 意 見
横田 様	<p>・再開発する手法として、一番簡単かつローコストで発展性もあるのは全て潰して新しい建物等を建てること。ただ、現状空き店舗であっても人が住んでいたり相続問題があったりで実現するのは難しい。</p> <p>・寺社仏閣は少し離れたところに駐車場があることが多く、途中にある商店に立ち寄ることで商店が発展していくということもあるが、総本山善通寺は裏に駐車場があるため敷地内ですべてが完結してしまい、お寺に来たついでにその辺の商店に立ち寄るといことがあまり起こらないという事情がある。</p> <p>・専門店はあるが、ふと立ち寄れるようなカフェや定食屋などが乏しいと感じる。ただ、中心市街地で飲食店となると、駐車場がないという問題が生じる。</p>
造田 様	<p>・大きな店舗や駐車場、イベントがあっても一時的に賑わうだけで抜本的な解決にはならない。派手なことではなく、善通寺らしさを残した中心市街地活性化を行うべきではないか。</p> <p>・善通寺らしさは、たとえばお遍路さんに道を訊かれたら快く答えてくれる親切な人々であったり、見通しが良く夜も明るいゴミの無い道であったり、住んでいる人が当たり前に穏やかに暮らせるところ。夜間の明るさや清潔な環境は、遅くなっても帰宅する際に安心感を与え、子どもたちの塾通いも安全に行える。このような安心感や利便性は、日常的な生活の中で気づき難いが重要な点で、人の優しさ穏やかさとともに、このまちに住もう、住み続けたいという動機になる。</p> <p>・人との交流がまちの魅力を作り出す重要な要素であり、個々の体験や人間関係が場所の魅力を形作っている。個人商店などで人と交流しての買い物は、大規模なショッピングモールで買い物をした時とは異なる高揚感がある。</p>

発 言 者	ご 意 見
山本 様	<p>・善通寺は、古墳のまち、かつての軍都、信仰のまち、アートのまちという4つの分野が複合的に絡み合っ魅力的なまちとなっている。</p> <p>・レトロな町並みが特に魅力を感じるので、そこを活かして「小さくて面白い店があるまち、小さく商いが始められるまち」をコンセプトにしてはどうか。現代は副業の時代と言われているので、小さな商売を手軽に始められるようにした方が良い。たとえば、昼だけ営業している店を夜は別の方に賃貸する制度であったり、空き家を活用する制度であったりについて、少額でも補助金を出して間口を広く手軽に始めてもらえるようにすると、新規参入者も増えるのではないか。</p> <p>・核は人と人の繋がりであり、何を買うのかではなく誰から買うのか。その人に会いに行きその人から買うということなのでコミュニティに繋がる。そのコミュニティ自体を支援することも大事。ただ、資金面の支援というよりは、コミュニティが自走し続けられるような人との繋がりでの支援（「最近、どう？」と言った問いかけなど）を継続的に行うと良いのではないか。</p>

発 言 者	ご 意 見
井口 様	<p>・再開発をするにあたって一番簡単なのは全て潰して建て替えることだと思う。しかしそうすると、どこか懐かしくて面白いという善通寺のカラーをなくしてしまうことになる。現在あるものを活かしながら、商売をしたいという人に貸していくというのが一番良いのではないか。</p> <p>・有名なチェーン店があることが豊かであることとは言えない。そのような店ばかりになると金太郎飴のようで、まちの顔が見えないということになる。善通寺の顔が見えるまちづくりをすべき。若い世代のひとは、有名なコーヒーショップチェーン店の出店を求めるが、なぜその店が欲しいかという本質的には家や学校とは違うサードプレイスを求めているから。そうであるなら、実際はチェーン店ではなく ZEN キューブや商店街の中の喫茶店でも良いのではないか。</p> <p>・ZEN キューブの催しとして『Living Lab 善通寺』（※）を開催している。これも、まちで人が集まれる場所があまりないことからきっかけ作りとしてスタートした。今回の参加者は 20 代前半から 60 代以上の様々な男女。善通寺にあれば良いものをテーマにワークショップを行い、実際にやってみるところまで行う予定。基本的に行政に頼らず、自分たちだけでやるスタンスで行う。参加者の多くが自主的にこれをやりたいということをうちに秘めているのが分かり、印象的であった。</p> <p>(※) リビングに集うような雰囲気、それぞれに善通寺でやりたいことや善通寺のまちについて感じることを語り合うイベント</p>

発 言 者	ご 意 見
上田 様	<ul style="list-style-type: none"> ・「ちょっとやりたいが叶うまち、やりたいことをやってみれるまち」を目指すの良いのではないか。大きなスーパーや商業施設に無いものを商店として復活させていくと良いと思う。来て欲しい商店を誘致するために補助金を充実させるなどの施策は必要。地域おこし協力隊として貸手と借手を繋げる役割を果たしていきたい。 ・善通寺は都会と比べるとやはり夜は暗いと感じるが、道が綺麗であったり治安面での心配がなかったりするので、個人的には良い場所だと感じている。夜に積極的に出歩けるように、光を灯すイベントなど、物理的に明かりを増やせばより良くなるのではないか。 ・大学が行政の直ぐ近くにあるという立地なので、大学生と連携していけたら良いと思う。まちにいる学生がまちで活躍できるシステムを作っていくべきではないか。 ・『Living Lab 善通寺』に参加しているが、その中で現在イチオシの意見は、音楽イベントの開催。音楽は音が鳴っているだけで何かしていることが分かり、人が集まるきっかけになる。大きなイベントとしてではなく、夜も含め複数回開催することで、夜が楽しい善通寺にも繋がっていくのではないか。
高畑 様	<ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地活性化は、ハード面での大規模投資をただで解決するような問題ではない。これから善通寺を担う若い世代の人たちに聞き取りをしたり、その人たちが議論をしたりすることで切り口を見出すのが良いのではないか。 ・昔は観光名所と言えなかった場所も、映えなどの理由によって観光名所となるケースがある。善通寺にも探せばそういう場所があるはずなので、若い人の感性でそこを見つけてもらって、それを切り口にしていけば良いのではないか。